

外出支援 ワゴン車発車!

氷見・仏生寺地区



「ハトムギワゴン」の運行開始を祝う仏生寺地区地域づくり協議会のメンバー＝氷見市鞍骨

氷見市の仏生寺地区地域づくり協議会（屋敷宗一会長）は3日、住民の外出を支援する車「ハトムギワゴン」の運行を始めた。高齢者が市街地で買い物など生活の利便性向上が期待され、同市鞍骨の県道沿いで開かれた出発式では、関係者が利用開始を祝った。

中山間地と市街地結ぶ

住民によって地域の課題を解決する「地域づくり協議会」は、氷見市が市内21地区で設立を目指す。中山間地でハトムギの産地として知られる仏生寺地区は昨年7月、市内第1号として発足した。

外出支援は厚生労働省の安心生活創造事業の一環として、市社会福祉協議会の協力を受けて実施。同協議会が所有するワゴンタイプの乗用車を借り受け、毎月第1、2週の木曜日にハトムギワゴンを運行し、住民に市内で買い物を楽しんでもらう。地区内は11集落あり、現在は高齢者約20人が登録。住民のサポートが運転手と介助者を務め、利用者の定員は1回につき8人とする。

出発式では、屋敷会長が「利用者喜んでもらえるよう頑張りたい」とあいさつし、車にネームプレートを張った。市の荻野市民参加と協働・防災のデザイン課長が祝辞を述べ、高田新司市交通安全協会仏生寺支部長が運転手に交通安全のお守りを贈った。

式後には乗り込んだ女性(76)は「これまでは家族や近所の人に買い物をお願いしていた。出掛けるのが楽しみになる」と笑顔を見せていた。初日は4人が利用し、市中心部のショッピングセンターを訪れた。